

2016 年度  
事業計画書  
予 算 書



新生児室で働く奨学生（ウガンダ・チオコ病院）

  
**JOCS** 医療を通じて、愛を世界へ。  
公益社団法人  
**日本キリスト教海外医療協力会**  
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

## 目次

1. 新年度の抱負 .....	1
2. 海外諸活動 .....	2
2-1 海外派遣 .....	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー .....	2
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー .....	3
(3) タンザニア 弓野綾ワーカー .....	4
(4) 短期 .....	4
2-2 研修生・奨学金支援 .....	5
2-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる） .....	10
(1) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア .....	10
(2) SALT プロジェクト(次世代のための健康と衛生) カンボジア .....	10
(3) シロアムの園の療育事業の基礎づくり（仮称）ケニア .....	11
2-4 災害救援復興支援 .....	11
3. 国内諸活動 .....	11
3-1 国際保健人材育成 .....	11
3-2 東日本大震災被災者支援 .....	12
3-3 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動 .....	13
3-4 マーケティング .....	15
4. 運営体制 .....	16
4-1 社員総会 .....	16
4-2 理事会 .....	17
4-3 委員会及びタスク .....	17
4-4 事務局 .....	17
5. 予算書 .....	18
収支予算書（正味財産増減ベース） .....	18
収支予算書内訳表（正味財産増減ベース） .....	21
収支予算書総括表（資金収支ベース） .....	24
公益目的事業会計 収支予算書（資金収支ベース） .....	25
法人会計 収支予算書（資金収支ベース） .....	28

## 1. 新年度の抱負

「平和＝神の国」をめざして歩み続けよう

<会長 畑野研太郎>

世界は大きく変化している。そして日本もその中で、大きく変化しようとしている。変化は常にあるけれども、この数年の変化は以前に比べて質の異なる変化であるように思える。その中で、私たち JOCS はどう進んでいくべきなのであろうか。

JOCS は、「神の国」を求めて歩んできた。そのことは、どのような時代となっても変化しない。「神の国」とはどのような状態をいうのか。すべての人々が、民族や文化や宗教の違いによらず平和に生きる。戦争が無いというばかりではなく、格差も差別もなくお互いに大切にして生きることができる状態である。現在の世界や日本に見られる方向の正反対を目指しているといえるかもしれない。

そのようなことを目指して歩み続けることは不可能であろうか。そうは思わない。私たちを導く方が、「神の国はあなたがたの間にある」と宣言されているからだ。「神の国」は、国民国家や巨大な制度の中ではなく、私たち個々の人々の間にすでに来ている。私たち一人ひとりが「お互いに大切にする」関係を築き続ける小さな出来事の積み重ねの中に「神の国」があると信じて歩み続けよう。

ワーカー派遣も、常に最も小さくされた人との関係をいかに築くかを目指して歩んできた。それは 56 年前、医療者のいない医療機関にワーカーを送ることから始まった。そして、コミュニティヘルスへ、結核へ、ハンセン病へと、常にその時代に置き去りにされている分野を中心にワーカーを送ってきた。今は、障がいと共に生きる人々の側にいることを中心としているが、JOCS がたどってきた他の分野の必要性が無くなったわけではない。

奨学金も、それぞれの国で草の根の人々と共に生きる人々の支援に用いられてきたし、これからもその方向性を持ち続けていかななくてはならない。この人々は、それぞれ信じる神はちがっても、「神の国」を求めて生きる私たちの同労者である。

そして、協働プロジェクト（プロジェクトりとする）。切実に必要とされているが、その国ではまだ開始されていない事業、しかし、その国にすでに共に働く同労者が存在する事業、これもまた「共に生きる・共に働く」方法の一つとして大切に育てていきたい。

世界は、より危険に、より不安な情勢になってきている。その中で、私たちの小さな歩み、「神の国」を築く歩みが正しく導かれますように。私たちのワーカー、奨学生、現地での同労者たちが安全に、「みんなで生きる」を実行できますように、皆様と共に切実に祈り続ける年としたいと思います。

## 2. 海外諸活動

2016年度は3名のワーカーが引き続き活躍の予定である。協働プロジェクトは新規のケニアでの案件が開始され、3案件となる。また既存の奨学生52名を引き続き支援し、数名の新規奨学生を選考の予定である。災害救援復興支援は必要に応じて即対応できるように予算を取っておくこととした。

### [2-1] 海外派遣

岩本ワーカーは日本に帰国し各地で報告会を実施後、7月にバングラデシュに戻り、ラルシュ・マイメンシンに6期目着任する予定である。山内ワーカーはバングラデシュの障がい者コミュニティセンターで、弓野ワーカーはタンザニアのタボラ大司教区保健事務所で、引き続き活動する。

#### (1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先：L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

赴任期間：2016年7月～2019年7月

##### 1) 報告会、ラルシュ・マイメンシンの支援

4月から3ヵ月間、日本国内で報告会を行う。責任を担うアシスタントと、その間も連絡をとりながら必要な助言を行う。

##### 2) 新しい覚え書きに沿った優先課題の選択

メンバー全員で新しい覚え書きを確認し、本年度の優先課題と具体的な達成目標を立て実施する。障がいのあるメンバーたちの個性の開花・生活の質の向上、アシスタントとしての質の向上が重視されるよう十分配慮する。

##### 3) バングラデシュ政府 NGO 省への登録の検討

NGO 省への登録の是非に関し、十分な情報収集をした上で、ラルシュの関係者が熟慮決定し、登録する場合は必要な作業を進める。

##### 4) 次期コミュニティリーダーの選出

バングラデシュコミュニティリーダーの選出方法と養成について関係者で検討し、実施する。

##### 5) ラルシュの理事会の強化

遠隔地へ引越しする予定の理事長とのコミュニケーション、また理事長と各理事たちとのコミュニケーションが滞ることのないよう支援する。新しく理事を2名増員し9名とする。職務遂行に困難を抱える書記担当理事の支援を行う。

##### 6) コミュニティカウンスル（評議会）の再編と強化、リーダーシップの養成

任期満了に伴い、カウンスルメンバーの選出方法を見直すことで、課題を抱えるカ

ウンシルの刷新を計る。アシスタントたちへ各々の役割の責任範囲を明確にすることで、リーダーシップを養成する。

7) バングラデシュ国内でのファンドレイズ（資金調達）の強化

イスラム教徒の理事が主導してきたファンドレイズ活動を、他の理事たちもその役割が担えるよう支援する。ダッカの支援者層を銀行、企業、製薬会社等を中心に、更に広げる。

8) 外国人アシスタントの採用とそのコミュニティ生活開始の支援

当コミュニティで働くことを希望している米国人女性の、その採用を関係諸団体と連絡をとりながら支援する。コミュニティにおける職務を明確にし、新しい生活がスムーズに始められるよう支援する。

9) ラルシュの家の建築に必要な資金の調達、工事の開始

家の建築及び諸手続きに必要な費用1,300万円を集め、10月を目途に工事を始める。

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー（理学療法士）

派遣先：PCC（Protibondhi Community Centre：障がい者センター）

赴任期間：2015年6月～2018年7月

1) PCC（障がい者センター）

- ・PPC（Primary Physiotherapy Course：初級理学療法コース）を6月に終了し、以降理学療法技術者に向け、個別指導を行う。
- ・PCC 理学療法スタッフの知識向上と技術向上を目指す。ICF（International Classification of Functioning Disability and Health：国際生活機能分類）に基づき、訓練重視でなく、参加や活動を重視した教育を行う。
- ・女性クラブでは、女性たちの集う場の環境づくりと収入部門の強化を行う。

2) Kairakly Clinic（カイラククリニック）

- ・理学療法担当者の教育を行う。理学療法手技、基本的な疾患の知識を習得させることを目指す。

3) KPKS（Kalibari Protibondhi Koran Shomiti：カリバリ障がい者協会）

- ・ローカル NGO の協力のもと、理学療法技術者候補を選抜する。
- ・知的障がいのある子ども・人の親と子どもの集会の定着化をはかる。

4) CPD（Centre for People of Disabilities:障がい者センター）及び Butahara mission（ブタハラミッション）

- ・理学療法技術者のフォローアップ、およびスキルアップを目指す。年に3回を予定している。

## 2. 海外諸活動

### (3) タンザニア 弓野綾ワーカー（医師）

派遣先：TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）

St. Ann's Mission Hospital（聖アンナ・ミッション病院）

赴任期間：2015年4月～2018年3月

#### 1) 聖アンナ・ミッション病院での活動

##### ①病棟診療

- ・月曜から木曜に、小児病棟または成人・母子病棟での診療を継続する。頻度の高い病気の診療の質向上のため働きかけを行う（助言、ミニカンファレンス、ガイドラインの紹介など）。

##### ②外来診療

- ・月曜から木曜に、総合外来診療を継続する。病棟と同じく、頻度の高い病気の診療の質向上のため働きかけを行う。また内科疾患などの「複雑症例」の紹介に対応し、紹介元医師へのフィードバックを行っていく。
- ・当院での内科慢性疾患（糖尿病、高血圧等）の治療へのニーズを把握した後、他医師やスタッフと協力して慢性疾患の治療のための外来を開始する。外来システムを出来るだけ長期的に継続可能な形にする。
- ・今後、病院が再開する予定のアウトリーチ（医療の過疎地域への巡回診療）に参加し、予防接種、小児・妊婦健診、健康教育など、地域での予防活動を行う。

#### 2) TAHO での活動

##### ①診療統計分析能力強化プロジェクト（協働プロジェクト）への協力

- ・JOCS事務局と連携して、金曜と土曜に、診療統計の資料作成を引き続き支援する。
- ・データ収集から分析、報告書作成までをTAHOが主体となり行い、完成前に助言を行う形の支援を目指す。

##### ②スーパービジョンへの協力

- ・TAHO傘下の医療施設を四半期ごとに巡回し、診療内容などに関して視察と助言を行う支援を継続する。

##### ③保健セミナー開催の支援

- ・2016年に、TAHO傘下の医療施設の職員を対象にセミナーの開催を支援する。テーマの決定、セミナーの準備、運営、振り返りに協力する。

### (4) 短期

タンザニアのンダラ病院への医師短期派遣およびケニアの「シロアムの園」への療育分野専門家短期派遣の可能性について検討する。

## [2-2] 研修生・奨学金支援

2015年度末時点で奨学金支給対象となっているインド、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの52名の奨学生を引き続き支援し、モニタリングする。同時に、海外派遣事業と協働プロジェクト事業との事業間連携を視野に入れつつ、カンボジア、ケニアなど JOCS と関わりがありながら奨学生のいない国に関してニーズ調査を進める。

### (1) インド

1971年までワーカーを派遣し、最近ではスタディツアーが訪問しているクリスチャンフェローシップ病院がカウンターパート団体である。現地で必要とされる資格を得るため、主にスタッフの子弟からの研修への申請が多くみられる。本年度も、カウンターパートからの要請により、必要と認められる奨学金支援を行う。

### (2) インドネシア

ICAHS（インドネシア・キリスト教保健サービス協会）傘下にある医療施設で働く保健医療従事者に奨学金を支援する。故田村久弥元ワーカーや長尾真理元ワーカーの派遣先の病院も ICAHS 傘下の医療施設である。

既に基礎的な分野での研修を終えている人がほとんどのため、資格を持ち医療施設で働いているが専門的な分野での研修を希望する人、または看護学校で教えるために看護学修士のための研修を希望する人を支援していく。

### (3) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、The LMN アナンダバン病院、UMN、タンセン看護学校、ラリトプール看護学校とその関連病院に奨学金による支援を行う。

既に基礎的な分野での研修を終えている人がほとんどのため、専門的な分野での研修を希望する人が多い。また、病院の運営や地域保健医療をより効率的に安定して行うため、病院経営やマネジメントの分野の研修を希望する人たちも多い。各所属団体の方針もふまえながら支援を行っていく。

### (4) バングラデシュ

1980年から今日まで多くのワーカーを派遣しており、2010年からは協働プロジェクトも行っている。そのため、過去にワーカーが派遣されていた団体が現在カウンターパートとなり、その団体の必要に応じた申請が多い。本年も、カウンターパートや現在活動中のワーカーからの要請を受けたうえで、必要と認められる奨学金による支援を行う。

### (5) ウガンダ

ウガンダには 2000年から 2005年までワーカーを派遣していたが、現在はワーカーは

## 2. 海外諸活動

派遣しておらず、奨学金支援だけを行っている。カウンターパートとしては、UPMB（ウガンダ・プロテスタント医療連盟）とリーチアウトがある。准看護師・准助産師から看護師・助産師になるための研修や、公衆衛生など医学系の研修への申請が多い。本年度も、両カウンターパートからの要請を受けたうえで、必要と認められる奨学金支援を行う。特に、研修終了後に地域のために尽力すると思われる人材を奨学生として選考する。

### (6) タンザニア

清水範子元ワーカー、倉辻忠俊元ワーカーおよび弓野綾ワーカーの派遣先であるTAHO（タボラ大司教区保健事務所）傘下にある医療施設で働く保健医療従事者に奨学金を支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで働いているスタッフも多く、看護・助産師、臨床検査技師など基礎的な分野での研修を希望する人が多い。

TAHO では、診療所からヘルスセンターへ格上げとなる施設、またはヘルスセンターから病院に格上げになる施設へ優先的にスタッフを配置し、次に遠隔地の診療所を優先させる計画を持っている。JOCS ではTAHO の計画を尊重しながら支援を行う。

### 支援予定奨学生一表注

\*職業は、奨学金申請時点のもの

\*GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

\*GMIM : Geredja Masehi Indjili Minahasa (ミナハサ福音教会)

\*ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

\*HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

\*PIME : Pontificio Istituto Missioni Estere (カトリック・ミラノ外国宣教会)

\*UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

\*TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

## 2016年度支援予定奨学生一覧

## インド

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
看護師	女	27	Christian Fellowship Hospital	看護学修士	2014年8月～2016年8月

## インドネシア

事務	女	23	GKST Sinar Kasih Hospital	栄養学	2013年9月～2016年9月
ボランティア	女	27	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2014年7月～2017年7月
会計スタッフ	女	23	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年6月～2020年6月
学生	女	25	ICHAS-Bethesda Hospital	医学	2013年1月～2017年12月
看護師長	女	42	ICAHS UKI Hospital	看護学修士	2015年7月～2017年7月

## ネパール

村落保健員	男	34	HDCS Chaurjahari Hospital	公衆衛生	2013年7月～2016年7月
検査技師助手	男	38	HDCS Chaurjahari Hospital	臨床検査	2013年7月～2016年7月
准助産師	女	32	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年9月～2017年9月
看護助産師助手	女	29	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年10月～2017年10月
事務・会計担当	男	27	HDCS Lamjung District Community Hospital	ヘルスケアマネジメント 修士	2015年12月～2017年12月
看護講師助手	女	37	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2014年9月～2016年9月
理学療法士助手	女	28	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年9月～2021年3月
医師	男	29	The LMN Anandaban Hospital	整形外科または皮膚科学	2016年9月～2019年9月
看護講師助手	女	38	Tansen Nursing School	看護学修士	2014年1月～2017年1月
検査技師	男	46	UMN Hospital Tansen	医用画像工学	2012年9月～2016年8月
薬剤師助手	男	40	UMN Hospital Tansen	薬学	2013年9月～2016年9月
看護助産師助手	女	49	UMN Hospital Tansen	看護学	2013年11月～2016年11月
准看護・助産師	女	44	UMN Hospital Tansen	看護学	2014年10月～2017年10月
上級保健衛生士	男	46	UMN Hospital Tansen	医学	2014年10月～2017年10月

## バングラデシュ

その他	女	21	PIME Sisters	看護・助産学	2014年2月～2017年2月
学生	女	21	なし	看護学	2014年2月～2017年2月

## 2. 海外諸活動

## 2016年度支援予定奨学生一覧

## ウガンダ

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
看護助手	女	24	UPMB Amuca SDA HC III	助産学	2014年10月～2017年4月
准看護師	男	30	UPMB Azur Christian Health Centre IV	看護学	2015年5月～2016年11月
看護師	男	24	UPMB Bwindi Community Hospital	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
准助産師	女	23	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准看護師	女	26	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准看護師	女	29	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
検査助手	男	30	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月～2017年8月
医師長	女	39	UPMB Kabarole Hospital COU	小児医学・小児看護	2013年8月～2016年8月
ヘルスセンター責任者	男	30	UPMB Kei Health Centre, Here is life	医学	2012年9月～2018年6月
看護師	女	41	UPMB Kiwoko Hospital	看護学	2013年9月～2016年9月
検査助手	男	27	UPMB Kiwoko Hospital	臨床検査	2015年8月～2018年8月
暗室助手	男	27	UPMB Kumi Hospital	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
看護助手	男	29	UPMB Kumi Hospital	看護学	2014年11月～2017年5月
看護師	男	26	UPMB Mukono C.O.U Hospital	看護学	2015年5月～2016年11月
薬剤師	男	29	UPMB Ruharo Mission Hospital	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	女	37	UPMB South Rwenzori Diocese	看護学	2014年11月～2016年11月
准看護師	男	27	UPMB South Rwenzoi Diocese	看護学	2015年5月～2017年5月
准看護師	男	33	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月～2018年5月
准看護師	女	25	UPMB West Ankole Diocese	助産学	2015年5月～2016年11月

## タンザニア

医療助手	男	21	TAHO Igoko Dispensary	医学	2014年9月～2016年9月
医療助手	男	20	TAHO Igoko Dispensary	臨床検査	2015年9月～2017年9月
看護師	女	47	TAHO Ndala Hospital	看護学	2014年8月～2017年9月
医療助手	女	27	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年9月～2018年9月
神父、カウンセラー	男	48	TAHO Sikonge Dispensary	医学	2014年9月～2017年9月
看護助手	男	26	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	看護学	2014年10月～2016年10月

## 2016年度支援予定奨学生一覧

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
医師補	男	29	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	医学	2014年10月～2019年10月
医師補	男	31	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	医学	2012年8月～2017年8月
受付係	男	22	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	放射線診断学	2014年10月～2017年10月
看護助手	女	29	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	看護・助産学	2014年4月～2016年4月

## 2. 海外諸活動

### [2-3] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

2016年度は引き続きタンザニアの診療統計のプロジェクト、カンボジアの健康教育のプロジェクトの2案件を実施すると同時に、ケニアで療育のプロジェクトを新たに開始する。タンザニアのプロジェクトは8月までが実施期間のため5月に終了時評価を実施する予定である。

#### (1) プロジェクト名：TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト

対象国	: タンザニア
対象地域	: タボラ州
プロジェクト期間	: 2013年9月～2016年8月
協力団体	: TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office) (タボラ大司教区保健事務所)
対象者	: TAHO とその傘下の10の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標	: タボラ大司教区保健事務所が、傘下の10の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックできるようになること

プロジェクト期間中に2014年と2015年の年次報告書作成を目指している。また、2016年6月にプロジェクト期間最終となるスーパービジョンを行う予定である。

5月には、JOCS職員2名が現地に出張し、プロジェクト目標を達成できているかどうか、最終評価を行う。

#### (2) プロジェクト名：SALT (Sokkaphheap Anamai La-or sumrup samai Thmey ＝次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタバン州
プロジェクト期間	: 2014年10月～2019年9月
協力団体	: バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタバン司教区周辺の学校に通う小学校6年生と中学3年生 (プロジェクト2年目は15校、800名)
プロジェクト目標	: 受益者の健康促進に関する知識の向上

対象校において健康教育の全課程を1年かけて実施する。2015年11月から2年目が開始された。プロジェクト1年目では6校が対象であったが2年目は15校まで増やす予定である。カリキュラムと教材は同じものを使用するため新たな追加作業は発生しないが、移動が増え、また対象校との日程調整などが複雑になってくるので仕事が増える。そのためヘルスセンターではプロジェクト専任のスタッフを1名増員して対応する。6、11月にモニタリングの実施を予定している。

## (3) プロジェクト名：シロアムの園の療育事業の基礎づくり（仮称）

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ郡
プロジェクト期間	: 2016年4月～2021年3月
協力団体	: コイノニアミニストリー
受益者	: シロアムの園の療育事業に登録される、身体・知的・精神・認知力などの発達に問題（主に複数）のある子どもおよびその家族（2015年9月の事前調査時点で30名弱の障がいのある子どもが登録済）
プロジェクト目標	: シロアムの園における療育事業の基礎の確立

現在ケニアでは障がいのある子どもやその家族を包括的・全人的にケアするアプローチが欠けている。シロアムの園では、定期的なグループ療法を提供することにより、集団生活や社会との接点を築くことを第一歩として、その後、このグループ療法のサービスを拡大することによって、特別支援教育につなげていく予定である。今年度より始まる当プロジェクト1年目ではグループ療法や特別支援教育で使用するカリキュラムの開発、教材や機材の購入や開発、スタッフに対する療育事業の技術的研修、短期アドバイザーによる職場内研修、療育事業に登録される障がいのある子どものアセスメントや記録・評価などに必要なツールの開発等を行う予定にしている。

## [2-4] 災害救援復興支援

現在のところ支援予定はないが、災害が発生した場合には迅速に支援を検討する。

<b>3. 国内諸活動</b>
-----------------

今年度は人材育成事業としてタンザニアへのスタディツアーを予定している。東日本大震災被災者支援は岩手県と福島県で活動を継続する。また、使用済み切手運動やワーカー活動報告会など、世界の現状を知り国際協力に参加する機会を提供する。

## [3-1] 国際保健人材育成

2016年度は定期的な国際保健勉強会、寿地区などへのフィールドセミナー、タンザニアへのスタディツアーを実施し、将来国際保健医療協力分野での活動を希望する人へ学びの機会を提供する。また、これらの活動はJOCSを知っていただき活動に参加していただく入り口としても位置付ける。

### 3. 国内諸活動

#### (1) 国際保健医療勉強会

JOCS 東京事務局にて 4～6 回開催する。また 2015 年度に「バングラデシュをケーススタディとした国際保健医療協力活動」をテーマにして実施した勉強会の特別編として、岩本直美ワーカーの活動報告会とバングラデシュの BDP 学校保健教育プロジェクト（協働プロジェクト）の報告会を行う。

2015 年度に毎回勉強会の後に実施したキャリア相談会（グループ相談会）を 2016 年度も継続する。2016 年度は勉強会後のキャリア相談会とは別に、個別で森田隆事務局長と面談できるキャリア相談会（個別相談会）も実施する。

#### (2) フィールドセミナー

国際協力の分野で働くことを希望する人に対し、国内をフィールドとして、草の根の人々と働く姿勢について学ぶ機会を提供することを目的とし、今年度も引き続き横浜市中区寿地区でフィールドセミナーを実施する。フィールドセミナーでは寿地区の概要や歴史について学ぶほか、炊出しやパトロールに参加する。

#### (3) スタディツアー

将来国際保健医療協力の分野に携わる人材を育成するため、タンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施する。タンザニアでは、パートナー団体であるタボラ大司教区保健事務所やその傘下の保健医療施設を訪問する予定である。

### [3-2] 東日本大震災被災者支援

東日本大震災から 5 年が経過した。JOCS では震災発生後から地元団体と協力し、被災者支援を行ってきた。2016 年度は、岩手県と福島県で活動を継続する。活動には、2015 年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付を充てる。

#### (1) 岩手県釜石市（協力先：特定非営利法人 カリタス釜石）

カリタス釜石が行う見守り活動への協力やお茶っこサロンへのサポートを行う。今年度から派遣チームの規模を縮小し、訪問回数を年 4 回から 5 回に増やす。また同時に看護師 1 名をほぼ毎月派遣し、カリタス釜石の活動に協力する。

#### (2) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」と連携して活動する。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援する。

2016 年度は、福島市の「福島愛育園」での個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用による外部被ばく量の実態把握を支援する。年齢が低い子どもはバッチの着用

が難しい状態であるため、子どもと一緒に生活をする職員が着用し、子どもの外部被ばく量を推測する。

### [3-3] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、以下の活動を行う。

#### (1) 使用済み切手運動

2016年度も、引き続き公益目的事業の一環であるボランティア活動を活発に行っていくため、使用済み切手収集や新規ボランティア募集の広報に努めたい。収集に関しては、外国コインや書き損じハガキのご寄付も増えてきたため、新たに切手運動専用のチラシ作成と、書き損じハガキ収集キャンペーンを行う予定である。また前年に引き続いて、送料負担キャンペーンを行う予定である。

- ・ 広報チラシ作成

使用済み切手運動について、切手の切り方を紹介するとともに、どのくらいの量でどのような支援につながるのかを伝えるチラシを作成し、会報誌に封入する。また希望者に配布する。

- ・ 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2016 2016年4月29日～5月1日(都立産業貿易センター台東館)

スタンプショウヒロシマ 2016 2016年6月4日～5日(県立産業会館)

高知スタンプショウ 未定

- ・ キリスト教会への周知

書き損じハガキキャンペーンとして、書き損じハガキの寄付を呼びかけるチラシを作成し、11月頃、日本国内の教会向けのDMサービスを用いて約6,000の教会に配布する。

- ・ 送料負担キャンペーン

2016年4月1日～9月30日の半年間、送付合計が5Kg以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキなどの送付を、ゆうパック経由で寄付していただいた場合に関し、送料を着払いで負担する。

#### (2) ワーカー活動報告会

バングラデシュから帰国した岩本直美ワーカーの活動報告会を4月から6月まで開催する。支援者への報告と、新規支援者からの理解・賛同を得るため、全国各地の教会・友の会に開催を依頼し、報告の機会を得る。

#### (3) 地区JOCS活動支援

### 3. 国内諸活動

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・四国高知各地区において、支援者グループによる使用済み切手整理や地域のイベント出展、チャリティコンサートなどの催し物が実施される予定である。各地区の催し物への帰国ワーカー派遣、報告会開催等の支援を行う。

#### (4) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会、教会等、各団体の希望に沿った講演ができる講師を派遣する。特に、子ども向けプログラムの充実を目指し、学校や幼稚園からの依頼に対しては、先方の教師と相談し、できるだけ参加型のワークショップを提供する。学校が主催するキャンプや保護者参加のイベント等への講師派遣依頼にも対応できるプログラムを用意し、参加者の意見を聞きながら改善していく。

#### (5) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループ等の希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や当会の活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

#### (6) 視聴覚資料

希望者に DVD、写真パネルの貸出しを行う。特に、JOCS の支援を受けて地域の人々のために奮闘している現地の保健医療従事者の活動を紹介した DVD「心をひらいて」および「カシ・ナマ・ジュパン」を多くの方に紹介する。

#### (7) 仙台の旅

JOCS が支援した日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオの活動地を訪問するツアーを実施する。復興支援の現場を視察し、震災から 5 年経った現在も必要とされている支援について学ぶ機会を提供する。

#### (8) JOCS のつどい

東京と大阪で開催し、JOCS の活動を知らない方々にも来場してもらえるよう広報に努める。また、参加してくださった方々の理解と賛同を得て、新規支援者となっただけよう道筋をつくる。

#### (9) 映画会

JOCS の活動目的である「みんなで生きる」平和な社会の実現について考えるテーマを扱った映画を上映し、活動への支援を募る機会とする。

#### (10) プレスリリース強化

各新聞社、クリスチャン系雑誌に帰国ワーカーの活動概要を記したニュースレターを

送り、取材依頼をする。またワーカーの活動報告会開催情報を送り、掲載を依頼する。イベント関連でも、各新聞社、クリスチャン系雑誌に開催情報を送り、掲載を依頼する。

#### (1 1) ネットワーク活動

国際協力 NGO センター (JANIC)、関西 NGO 協議会、障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)、カンボジア市民フォーラム、公益法人 NGO 連絡会のメンバーとして、情報交換や、一団体では困難な活動を行っていく。

#### (1 2) 関西事務局

社会人や学生など平日にボランティア活動へ参加できない方々を対象に、4月より毎月第4土曜日に関西事務局を開けることとする。ボランティア入門講座やミニカフェなど、JOCSの活動に関わっていただくきっかけ作りを行う。

### 【3-4】 マーケティング

会員数は、過去長らく年間の純減 200 名が続いていた。「5 カ年計画 2013」において、2017 年度までに退会者数と新規入会者数を均衡させることを目標としている。2016 年度は、会員数の純減 25 名以下が目標である。

2014 年度に広報の専門家の指導、助言を得て理事、監事、職員全員が行ったブランディングにおいて、アプローチする対象をクリスチャン及びキリスト教共感層とすることを決定した。特に、教会に通っている 50 代～60 代の女性及び定年後の 60 代の男性、キリスト教主義学校関係者、友の会会員を重点対象とした。これらの層の方々に対して、JOCS の活動への賛同・共感を得られる広報を行っていくとともに、会員・寄付者の継続率向上を図っていく。

#### (1) 会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

支援者への説明責任を果たすために、年 7 回（偶数月 10 日と 11 月 10 日）発行する。海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告や、国内活動、地区 JOCS の活動などを掲載する。とくに現地の人々の声や読者の声の掲載に力を入れる。

#### (2) 年次報告書

すべての支援者に前年度 1 年間の活動の報告を行うことで、JOCS への信頼を獲得し、支援の継続と寄付額の増加を目的とする。年 1 回 6 月に A4 版で発行し、会報誌・夏期募金趣意書とともに郵送する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告を、現地の声を取り入れるかたちで掲載する。そのほか、国内事業や支援者の声、会計報告も掲載する。写真を多く取り入れ、読み易い構成とする。

## 4. 運営体制

### (3) ホームページ

前年度は、外国コイン・紙幣の検索上位を目指したが、今年度は書き損じハガキ収集での検索上位達成を目指したい。そのためのページつくりと検索キーワード設定などの対策を行いたい。

### (4) 雑誌広告

新しい支援者を得るために、キリスト教雑誌「百万人の福音」「信徒の友」の7月号・1月号に1ページ広告を掲載する。写真だけでなく文章で活動の様子を伝えられるような内容とする。

### (5) 会員マーケティング

ワーカー報告会を新入会の最大の機会とし、2016年4月から7月までの報告会で、40人の新規支援者を得ることを目指す。ワーカー報告会終了後にはJOCS職員が活動説明会を教会などで実施し、引き続き新規支援者を得ることに努める。

また、会員の継続率を向上させるため、引き続き「会費納入のお願い」、「領収証」の送付時等に、より細やかなコミュニケーションに努める。

### (6) 募金

ワーカー報告会や広報、イベント等で、活動内容と成果をアピールすることで寄付収入を増やす。

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書と同封して支援者に送付する。冬期募金については、それ単独で活動の様子を伝えられるような趣意書を作成し、支援者と直近の1年以内に使用済み切手を初めて寄付くださった人に送付する。

### (7) 遺贈マーケティング

遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けにパンフレットを作成し、周知する。また、「公益法人に関するNGO連絡会遺贈分科会」のメンバー7団体で情報交換をしつつ、共同でのセミナー開催等を検討する。

## 4. 運営体制

公益法人として法律で定められている社員総会及び理事会の開催計画は以下のとおりである。また、透明性の高い組織運営を行うために設置している委員会活動について記す。

### [4-1] 社員総会

第 55 回定時社員総会を、日本基督教団信濃町教会にて、2016 年 6 月 11 日（土）に開催する。

#### [4-2] 理事会

今期（2016 年度～2017 年度）の理事候補者 10 名及び監事候補者 2 名の選任を 2016 年 6 月 11 日（土）の社員総会に諮る。定例理事会は 7 回の開催を予定している。

#### [4-3] 委員会及びタスク

2014 年 6 月に組閣された各委員会及びタスクは、理事会の諮問を受け、実務的課題から戦略課題を検討した。2016 年 6 月 11 日の第 55 回定時社員総会の終結をもってその任期を終える。本総会で選出された理事による新理事会より、必要に応じてまた諮問を行っていく。

#### [4-4] 事務局

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・マーケティング部長・管理部長 名取智子

東京事務局 大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、松浦由佳子、森田真実子  
山中信

関西事務局 渋江理香、西村卓